

会頭就任挨拶



静岡商工会議所
会頭

酒井 公夫

静岡鉄道(株)
代表取締役会長

企業・地域・基盤づくり+人づくり

このたび、皆様方の温かいご推挙によりまして、静岡商工会議所会頭に就任いたしました酒井でございます。

第3代会頭に選任いただきましたことは、身に余る光栄であるとともに、地域最大の経済団体である商工会議所に課せられた責務の重さを痛感している次第であります。

初代の松浦会頭は、平成15年に静岡市・清水市が合併した後、幾多の懸案を乗り越え、平成22年に地域経済界の念願であった静岡・清水両商工会議所の合併を成し遂げられました。

第2代の後藤会頭は、商工会議所の基盤強化のため13,000会員を達成し、合併当初全国10番目であった会員数を7番目までに拡大されました。また、様々な事業を通して静岡・清水の融和を図るとともに、県内外の商工会議所や関係機関とのネットワークを構築、昨年「家康公四百年祭」を成功に導き、当会議所の存在感を高めていただきました。

両会頭のご功績を引き継ぎ、当地域の活性化に寄与してまいる所存ですので、改めまして皆様のご支援をお願い申し上げます。

さて、最近の地域企業を取り巻く状況ですが、急激な為替変動など様々な要因で経済環境が変化する中、企業の経営課題は多様化しております。また、経営者の高齢化に伴う事業承継も大きな問題になっていきます。さらに、人口減少が深刻化し、業種を問わず、どの企業でも人材確保や生産性向上が重要な課題となっております。

こうした中、当商工会議所では、第2次中期行動計画の最終年度を迎えており、3本の主要テーマである「企業づくり」「地域づくり」「基盤づくり」に基づき事業を実施しているところであります。

「企業づくり」におきましては、商工会議所の最も重要なミッションは、やはり地域企業の経営支援で



あり、改めて地域企業の様々な課題やニーズに対応する支援体制を強化してまいりたいと考えています。当会議所には、中小企業相談所のほか、「事業引き継ぎ支援センター」、「中小企業再生支援協議会」、「経営改善支援センター」、「よろず支援拠点」など、創業から廃業まで企業の全ステージに対応する相談窓口があり、これだけの体制を整えている商工会議所は全国でも静岡だけです。これらをもっとアピールして、地域企業の皆様に活用いただきたいと思っています。

また、今年度から事務局に就職支援課を設置しており、「ジョブ・カードセンター」や「プロフェッショナル人材戦略拠点」とともに、地域企業の人材確保支援に注力してまいります。

「地域づくり」におきましては、都市の魅力向上と賑わいあるまちづくりを推進しております。

静岡地区はコンパクトシティが形成された商業のまちであり、今後はさらに集約して吸引力を高めていく必要があります。また、歴史文化のまちづくりとして、家康公顕彰事業に加えて聖三國師など多くの歴史資源を活用してまいります。

清水地区は国際物流と工業のまちであり、清水港を中心としたまちづくりが進められているところです。江尻・日の出・折戸・三保地区の機能分担を進めるとともに、特に日の出地区の海洋文化拠点づくりに力を入れてまいります。

そして、静岡・清水の更なる交流を図り、両地区が一体となってそれぞれの特性を活かした魅力あるまちづくりに取り組んでまいりたいと考えています。

また全国的に人口減少が進み、どこの市町でも観光振興により活性化を図る地域間競争が激化しています。自治体の政策はその市町に限定した内容になりますが、観光客にとって自治体の境界は関係ありません。当会議所が自治体間の橋渡しをする「横串役」となり、当地域の交流人口の拡大に向けて取り組んでまいります。

「基盤づくり」におきましては、一人でも多くの会員の皆様に当会議所を利用いただき、会員メリットを享受いただけるよう会議所事業の周知を徹底するとともに、会員の皆様の声を集め提言要望活動の充実強化を図ってまいります。

そして、来年度からスタートする第3次中期行動計画では、これまでの「企業づくり」「地域づくり」「基盤づくり」に「人づくり」というテーマを加えたいと考えています。

「人づくり」として、これからの地域経済の発展を担う会員企業の人材育成の支援や、まちの魅力向上など地域のために活動する人材を育てる環境づくり、それらをサポートする事務局職員の資質向上に取り組んでまいりたいと思います。

当会議所役職員が一丸となり、行政機関や関係諸団体の皆様、そして何より13,000の会員の皆様とともに、文字通りオール静岡で当地域の活性化に取り組んでまいり所存でございます。

結びに、会員の皆様には、二層のご支援とご協力をお願い申し上げます。会頭就任のご挨拶とさせていただきます。